

Title	式辞
Author(s)	林, 良平
Citation	静脩 (1979), 16(2): 2-4
Issue Date	1979-12
URL	http://hdl.handle.net/2433/36850
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

るところであります。と申しますのは今や図書館は単に書を蔵するところではなくて広く情報を媒介する機関として図書館機能を果すものであり、このためには強力な中心なくしては各部局の図書館も機能を果たし得ません。さきに発表された日本学術審議会の学術情報システムの在り方についての中間答申にもありますように大学図書館はひとりその大学内において機能するのみでなく、広く学外においても相互に手をたずさえて我が国の学術情報の提供に責任を持つべきものであります。その意味では、京都大学が一丸となって外へ手をさしのべることが必要であり、そのためにはまず学内での調和ある全図書館群の融合が必要です。各部局、各研究者の独自性を尊重しつつ広く京都大学の図書館のトータルなシステムを組むということであります。そのような図書館の機能的変革の秋に当り、本学図書館全体として、この附属図書館に期待すべきところは甚だ大であります。

さきにこのような本学における学術情報問題、殊に機械処理について調査検討をすすめるために学術情報問題調査検討委員会を設けましたのも、このことのために全学的な関心と工夫を喚起する意図に外なりません。何卒かかる委員会の検討を土台として、学内でのネットワークや学外との提携をすすめ図書館活動を通じて京都大学の負う責任を果すことを期待しています。

最後に建物について一言しますと、図書館は学

生諸君のためにも又研究者のためにもその大学の学問的雰囲気を中心として、彼らを研究学習に誘うものでなくてはなりません。読書に疲れその屋上に上ってはそのキャンパスを眺め、その学問的雰囲気にひたり又夕方、又は深夜図書館を後にして帰途につく時、本当に学問をする者の喜びを味わしめるのも学生時代の学問雰囲気の満ちた図書館であります。この点、私が本学に入ってから以来、本学は必ずしも恵まれているとはいえないのであって、昭和11年失火にあいその後15年地鎮祭を行いつつ今次大戦に遭遇し中途のまま放置され、昭和23年戦後窮乏の尚収まらぬ時、ひとまず完成といった経過を辿ったものであって、そのため外観内容共に学問的雰囲気といった様相を持っていません。かつて若い頃留学してみた世界の大学の図書館のたたずまい、又過日英国、仏国を巡って見た現在の図書館の実態と比較しますとこれはまさに本学の一つの大きい不備といわねばなりません。この点各方面の御検討と御工夫を願っているところではありますが、何卒一日も早く新しい附属図書館が建設されることを希うものでありまして関係各位の御理解をお願い申し上げます。かくて名実共に京都大学の研究、学習の原動力として今後共に本学の附属図書館が益々発展し来たる100周年には名実共に本学の学問研究の中核と成っていることを信じ、そのための学内外の御協力をお願いして挨拶と致します。

式

辞

京都大学附属図書館長 林 良 平



本日、京都大学附属図書館の創立80周年の日を迎えるにあたりまして、ここにささやかな記念の式を上げることのできますことは、わたくしどもの心から

喜びとするところであります。学内外の多数の来賓関係者がこのように御参会頂きましたことは、重ね重ね喜びとするところであります。皆様の御厚情に厚く御礼申し上げます。

この機会にわれわれの80年の歩みの一端をふり返り今日おかれています状況について御報告申し上げ、ここに致しますまでの御努力御協力に殊に

謝意を表するとともに御列席の皆様への御挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。

本図書館が、わが国第二の国立大学図書館として創設されましたのは明治30年6月18日に京都大学創設と日を同じくします。東京帝国大学・第三高等学校・帝国図書館などから移管されました図書を中心に木下総長みずから館長を兼務してここに本附属図書館はその第一歩を踏み出したわけでございます。

本学附属図書館はその創立当初より研究図書館ならびに学習図書館を兼ね備え、さらに木下総長の意中には西日本に始めての国立の図書館として大学を超える規模の責任をも負うとする気概もみられました。創立当初は全学図書の整理、閲覧の業務を行い全学図書のすべての目録カードは附属図書館に収められました。いわゆる全学総合目録であります。この総合目録は今日にまでおよび370万冊の本学蔵書の目録カードをすべて整理保存し検索に提供しております。しかし整理閲覧の業務は分科大学、後には学部・研究所の拡充に伴い、かなりの部分は各部局に拡散して参り今日直接所蔵する図書は50万であります。しかし各部局での図書業務のモデルは本図書館に殆ど、また今日においても全学図書事務の調整役として附属図書館は全学的規模の役割を果たしております。

研究図書館的機能は、このように各部局に拡散して参りましたが後に申し上げますように各時代に応じて形を多少変形させつつ本図書館においてもつねに重要な機能を営んで参りました。

ひるがえって学習図書館的機能について申しますと3万冊に及ぶ開架図書を中心とする閲覧室に年間に入館し利用する学生諸君の数は延べ35万人に及んでおります。学園紛争中もつねに静粛な学習の場として全学の支持を受け夜間の閲覧のための灯の消えたことはございません。紛争時の立入禁止のため一時、午後7時をもって閉館いたしておりましたが、昨年、本年と相ついで午後8時、午後9時へと延長し閉館ぎりぎりに至りますまで数百名の学生諸君の研鑽の姿は閲覧室を埋めております。

研究図書館的機能に立返って申し上げます。

拡散されて発展を遂げて参ります各部局図書室は、教官の努力を中心とする収書によってわが国、国立大学中で最もすぐれた蔵書を収蔵する大学図書館の一つと数えられる状況であります。しかし学際研究図書や各部局の共通利用に供せられる共通図書、大型で貴重なコレクションは本図書館に収められており、また全学問分野の図書のうち基本図書とも申すべきものは全学教職員学生に部局の所属を離れて平等に利用されよう本図書館でも努めて収書しております。

さらに京都の地の特殊性と申しますか、また創立にあたって西日本の国立図書館的機能をも果そうとしたいきさつから、近代以前の経書の研究やわが国古文学の研究に貴重な文献となるべき図書、巻物、版本などまた尊攘堂とともに寄贈された明治維新の重要資料などをも収めております。このうち168点は重要文化財の指定を受けております。そのかなりの部分は京都の旧家の寄贈によるものであり、ここに改めて御礼申し上げねばならないと存じます。しかしこの方面の研究者のメッカとしての役割も果しており、これらを収集された先輩の御努力は今日も香り高い遺産となっております。

さらに戦後、海外交流が再開されました日には図書館の性質上、当然海外交流の重要な窓口の一つとなりました。欧米諸大学との図書交換やアメリカセンター図書、フラフ（HRAF）所蔵館、国際地球観測年事業の一環として設置された地磁気世界資料室などはその現れであります。

もっとも、この点につきましても海外交流の緊密化とともに、次第に各部局直接の交流にかなりの重点は移りました。しかし本図書館の果たした先駆的役割は銘記すべきものと存じます。さらに近年の研究図書館的役割で注目すべきことは、いわゆる二次資料の充実であります。近年になり商議員各位の熱心な御協力のもとに、その充実がはかられて参りました。おびただしい情報量の増加と研究の学際化の高まりはおのずと文献資料の検索の方法の変革を要求します。これらはいまや全学研究者に共用の必須なツールとなりつつあります。

さて今日の図書館はもはや孤立した図書館一つ一つとして論ずることは無意味となりました。提供され、また要求される情報量が増大するにつれ今日の図書館は情報の収集にも情報の処理にも一つの館だけでは充足することが不可能となりました。

京都大学内部のすべての図書館、図書室の相互協力が必要なだけでなく、学外のすべての図書館との協力が必須のものとなりました。今日図書館をめぐって機械化が重視されて来たのはこれと無関係ではありません。総合目録をデータベース化することや、文献情報について作成されたデータベースを利用して、たがいに検索することによって収書の方にも利用にも相互協力を深める日は遠くないと存じます。

幸い本学では数理解析研究所での全国大学に先がけた図書業務の機械化の歴史をもっており、今日では外国雑誌の受入について、すでに機械処理を実施しておりますが、さらに大型計算機センター、情報処理教育センターの御協力を得て、将来の発展に備えてプログラムの作成、ターミナルのテスト的使用、要員の研修などにも着手しております。

唯今の附属図書館の建物について一言申し上げます。昭和11年不慮の出火によって閲覧室を失った後、仮住いの運営をつづけておりましたが、羽田館長は再建に鋭意努力され、総長に就任されました後も本庄館長ともどもその策をすすめ、昭和15年再建築の地鎮祭まで執り行ったのでありますが、残念ながら戦争のため延引し、しかも戦後の窮迫の中で当初計画の半分の規模となって、今日の建物がやっと23年に竣工したのであります。羽田総長は、そのほかにも図書充実のため配慮されるなど、われわれに多くの遺産を残されたことには今日改めて敬意を表する次第であります。今申

し上げたように増大する図書館への要求に応えるには残念ながら、この建物は狭隘かつ機能的に不十分なものとなりました。収蔵する重要な図書の整理拡充、学生諸君の要望にさらに応えたいために、物的予算の手当も焦眉の急をつげております。残念ながらそれらの点については、近年では七旧帝大中必ずしも充分な状態になっておりません。

しかしその乏しさの中で、商議員各位館員諸君の格別の御協力によりなされる厳選された選書や乏しい予算の中で苦心の保存整理、閲覧席千席、開架図書10万を必要とする中をやりくりする学生諸君の協力で、いわば古いしかも使いこまれて輝きを増した家具にも似た状況下で附属図書館は生氣ある運営をつづけております。できうればこれにふさわしい物的裏付けをというのがわたくしどもの今日の切実な願いであります。

天平奈良朝時代からヘリオトロン核融合研究に到るまで本学図書は長い歴史の巨大な蓄積の上にあります。これらの図書はこの大学で学び研究するものに未来の無限の思索の展開に資するため提供されています。図書館には、この文化的遺産を収蔵しております。しかし図書は研究者の内的創造性により活用されるべく存在するもので好事家の収集のたのしみのためにあるものではありません。

われわれの図書館は、まさにこの研究学習に資するため、今後も格段の努力をつづけるつもりであります。学内外の皆様のこれまでの御支援に改めて深く謝意を表しますとともに今後の努力を1980年代を目前に控えて人類文化の新たな進展が期待されています。われわれの附属図書館はくしくも1980年に20日早めて本日80年代に突入しました。1980年代を先取りしてわれわれは前進して参りたいと存じます。

京都大学附属図書館創立80周年記念行事 昭和54年12月11日（火）

上記の記念行事が、昭和54年12月11日（火）に次のとおり行われた。

式典	午前11時—正午	京大会館1階講演室
祝宴	正午—午後1時	同2階大会議室
展示会	(11日・12日2日間)	午前10時—午後3時半 附属図書館1階会議室
		展示品 重要文化財を含む貴重書 外国二次資料
図書目録の機械化実験	(11日・12日2日間)	
	午前10時—午後3時半	附属図書館1階端末機操作室